

第79回 指定都市PTA情報交換会 熊本市大会
「かけはし」
～子ども・保護者・学校・地域・・・そして未来へ～

第3分科会：地域連携

分科会テーマ

「地域学校協働活動と
コミュニティ・スクールの一体的推進」



幸せになるために、
何が必要だと思いますか？

令和6年9月12日（木）
熊本市教育委員会 地域教育推進課
指導主事 中屋 恵里

今日のメニュー



1. 地域と学校の連携・協働はなぜ必要か



2. 地域学校協働活動とは？

コミュニティ・スクールとは？



3. 一体的推進について



4. 熊本市のモデル事業について



5. 子どもの未来を考える「熟議」を

やってみましょう

1. 地域と学校の連携・協働はなぜ必要か？

不登校児童生徒の増加

人手不足

放課後の居場所づくり

業務量の増加

時代の変化に伴い
学校の在り方が変化している

児童生徒数の減少

多様な保護者対応

通学路の安全確保

価値観やライフスタイルの多様化

地域コミュニティ希薄化

時代の変化に伴い
地域の在り方が変化している

少子高齢化の進行

人口減少

未曾有の災害



1. 地域と学校の連携・協働はなぜ必要か？

社会に開かれた教育課程



＝新学習指導要領の基本的な理念

「資質・能力の三つの柱」「カリキュラム・マネジメント」など、新しい学習指導要領における重要な事項の全ての基盤となる考え方が「社会に開かれた教育課程」です。



2. 地域学校協働活動とは？



学校に対する多様な協力活動

- 登下校の見守り、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、子供たちへの本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援、企業等による出前授業等の教育プログラムの提供 など



学びによるまちづくり・地域課題解決型学習・郷土学習

- 地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方策を考え、実行する学習活動
- 「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動
- 地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習 など

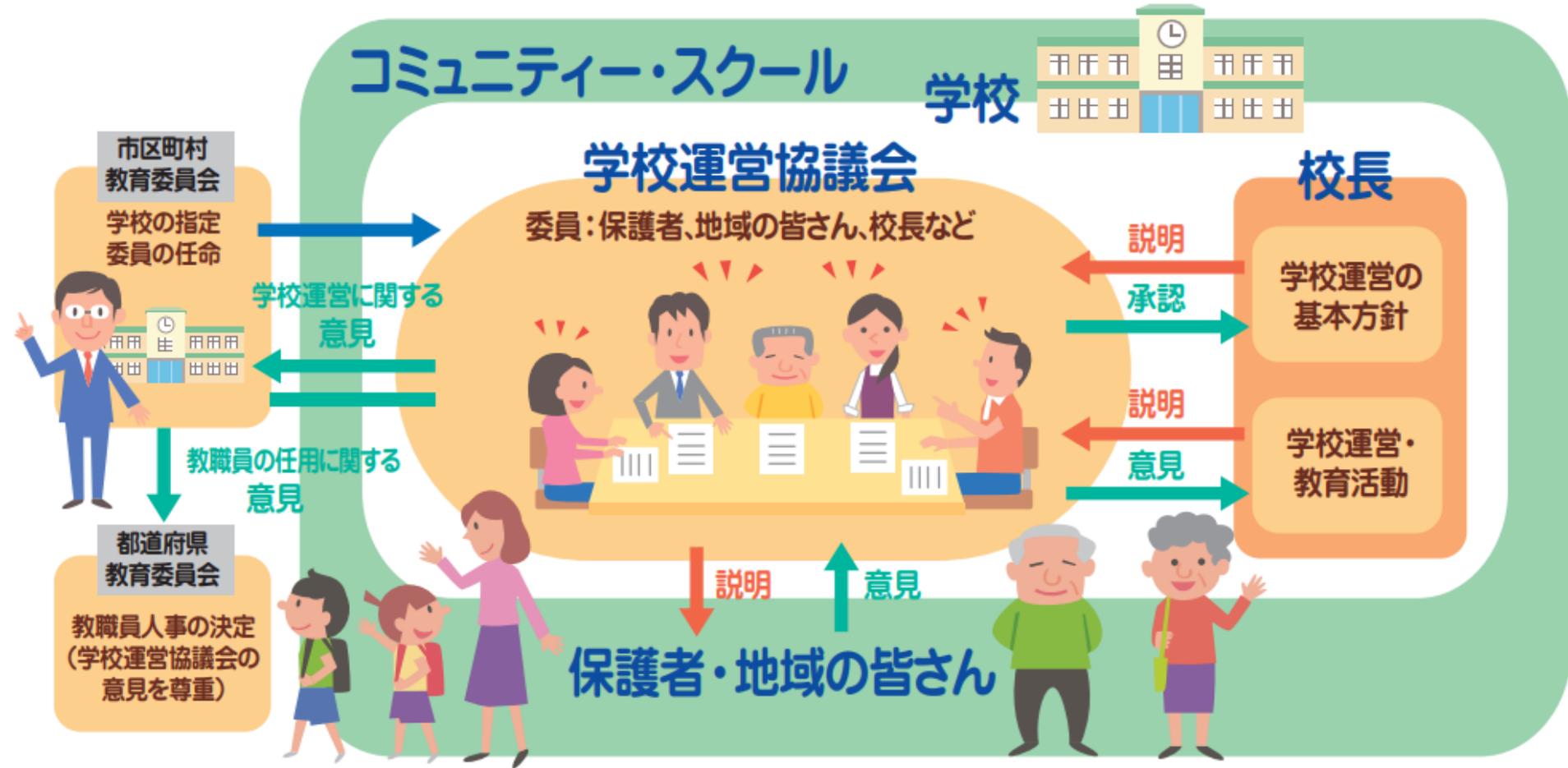


地域の行事、イベント、お祭り、ボランティア活動等への参画

- 地域イベントにおけるボランティア体験学習、伝統行事やお祭りでの伝統文化・芸能の発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画 など

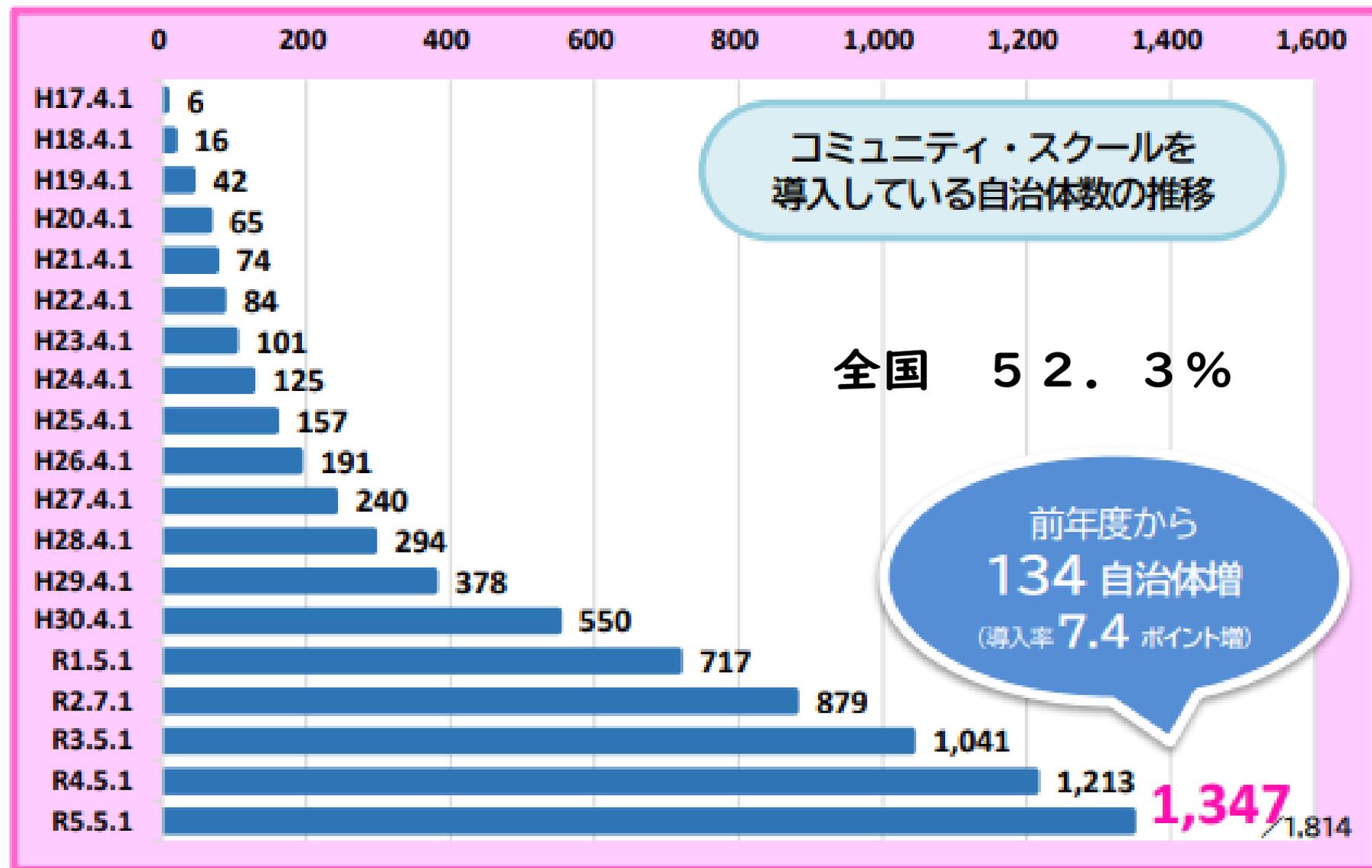


2. コミュニティ・スクール (CS) とは？



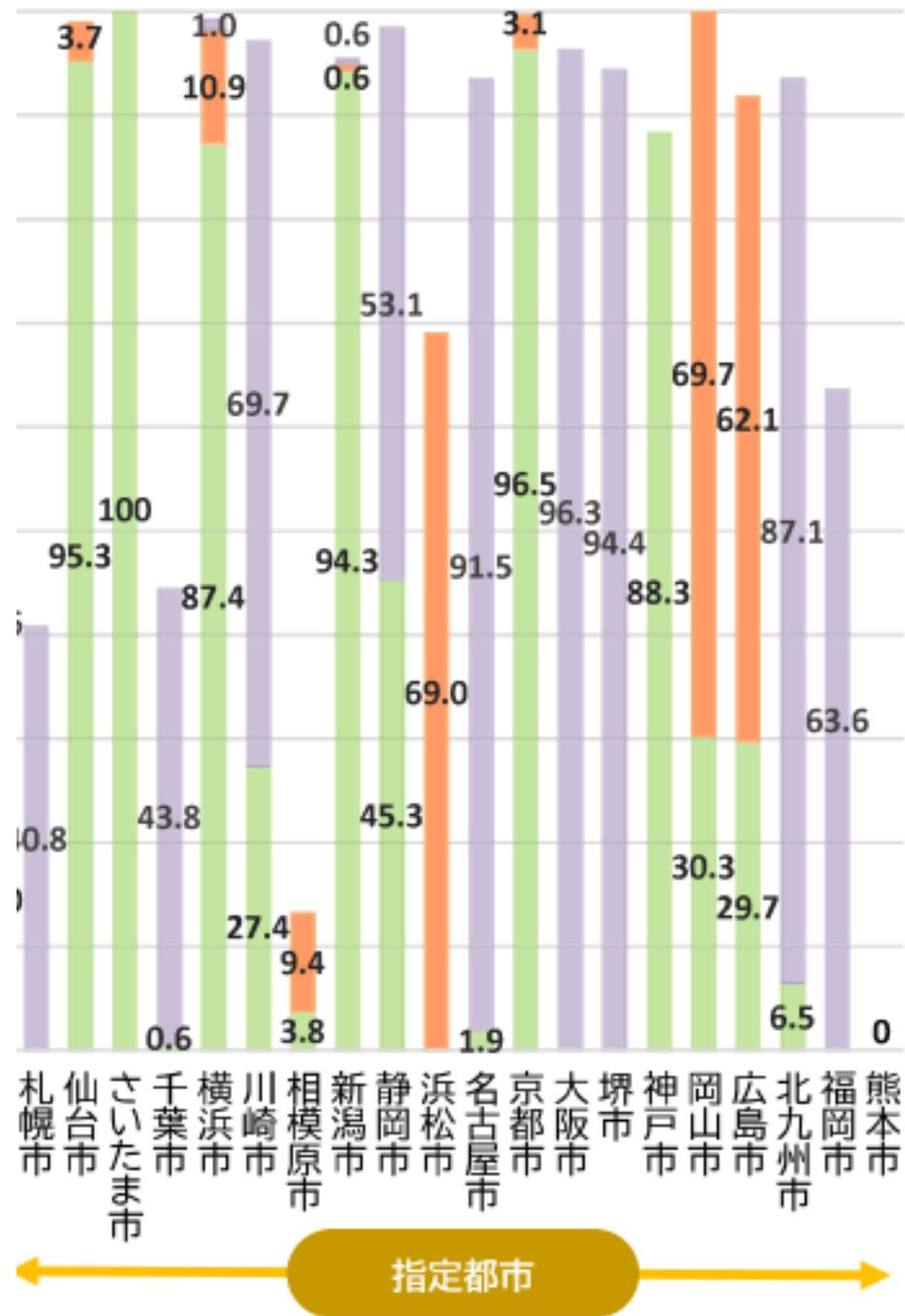
2. コミュニティ・スクール全国の導入状況（R5.5.1現在）

1,347 自治体（74.3%）（38 都道府県、15 指定都市、1,277 市区町村、17 学校組合）



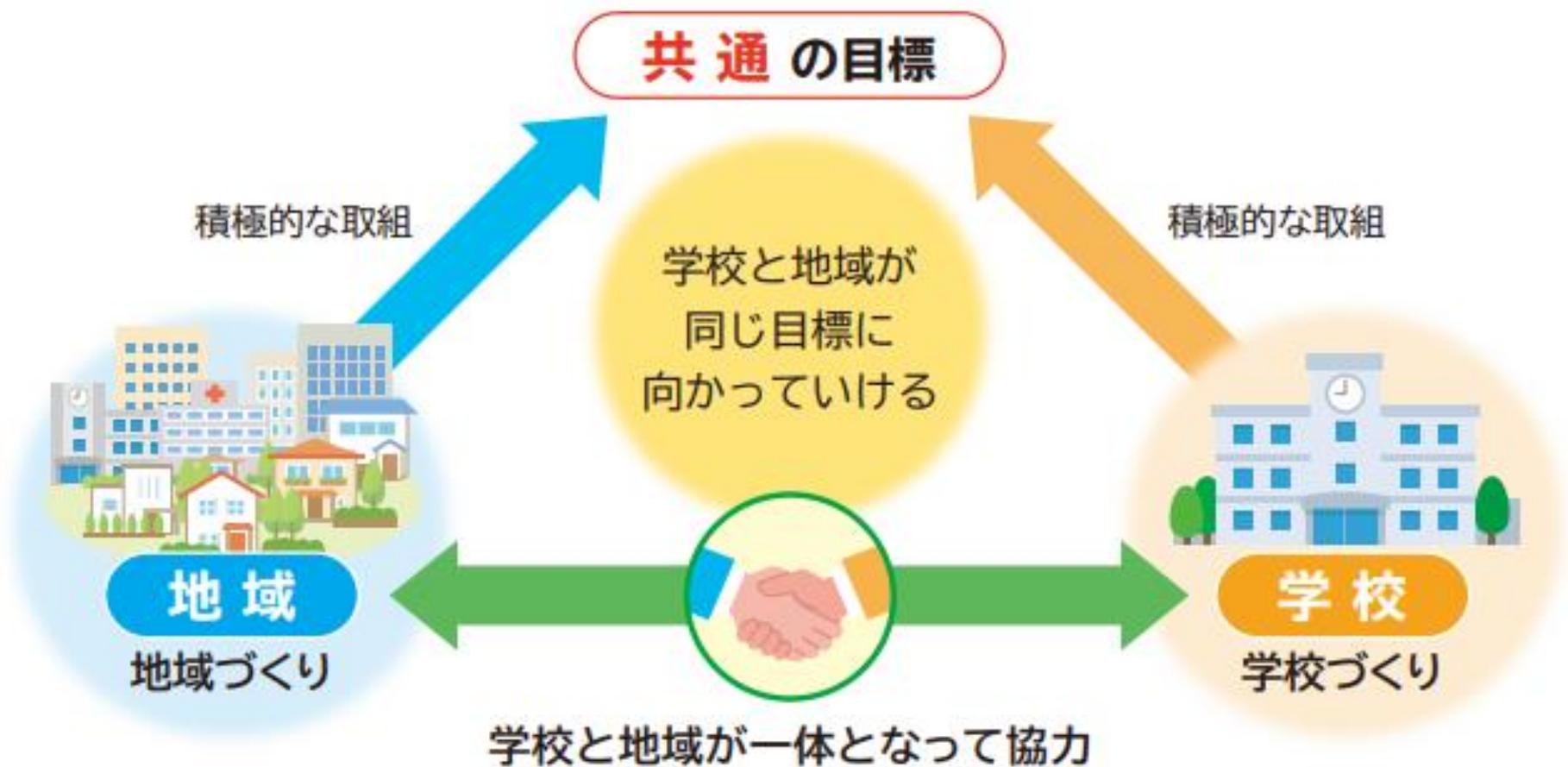
2. コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的な整備状況（R5.5.1現在）

- 両方を整備
- コミュニティ・スクールのみを整備
- 地域学校協働本部のみを整備



3. 一体的推進について

学校と地域がパートナーとなることで・・・



3. 一体的推進について

各地における効果的な取組

○生徒指導上の問題解決の取組（福岡県春日市）

→ こどもが変わり、学校が変わり、まちも変わった

○CSを活用した不登校対策の取組（北海道登別市）

→ 5年間で約3割減少

○まちぐるみで若者の地元定着を図る取組（鳥取県南部町）

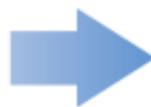
→ 中高生が地域の担い手、地域を盛り上げる人材として活躍



3. 一体的推進について（取組の効果）

保護者・地域住民等も教育の当事者になることで、責任感をもち、積極的に子供の教育に携わるようになる。

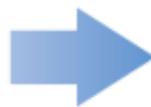
- 近所に元気のない様子の子供がいても、なかなか声をかけることができない
- 子供のマナーについて学校へ苦情の電話



- 積極的な声掛けや自ら指導する機会が増える
- 学校任せではなく、地域が学校とともに対策を考える

保護者・地域住民等が学校運営や教育活動へ参画することで、生きがいにつながり、子供たちの学びや体験が充実。

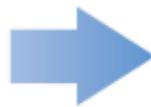
- 自分の経験を生かして学校や子供のサポートをしたいが、迷惑にならないか
- 地域の人と関わる機会が減ってきている
- 地域人材を活用した学習が単発で終わってしまう



- 地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現する
- 学校を中心に地域がつながり、地域の活動が活発になる
- 地域の創意工夫や特性を生かすことで、学校での学びがより豊かで広がりを持つようになる

保護者・地域住民等と学校が“顔が見える”関係となり、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現。

- 一方的な意見が数多く学校に寄せられる
- 学校が保護者や地域住民の様々な要望の対応に追われている



- 学校の現状や方針への理解が深まり、地域が学校の応援団になる
- 地域の協力により教職員が子供と向き合う時間が増える

その他にも・・・

学校と地域の協力体制が築かれることで、生徒指導、防犯、防災等の面でも課題解決に向けて効果が期待されます。



4. 熊本市のモデル事業について

熊本市教育委員会 地域教育推進課

(1) モデル校の設置

モデル事業を進めるため、希望校の中からモデル校を4校選定



健軍東小学校



城南小学校



武蔵中学校



必由館高等学校

(2) モデル事業の実施期間

令和6年度（学校と地域の実情に応じて延長可とする。）



4. 熊本市のモデル事業について（取組）

（3）拡大評議員会による学校づくり

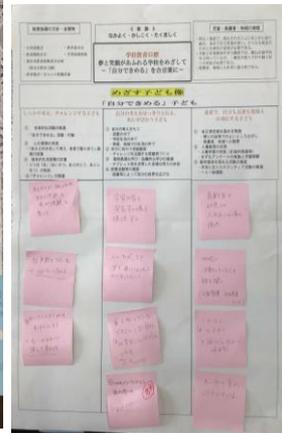
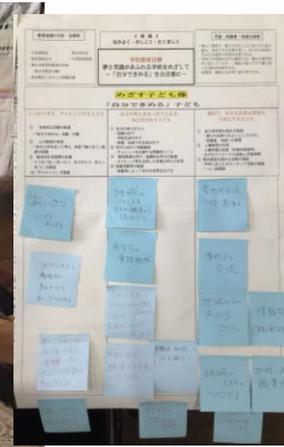
学校教育目標の共有



校長の説明



ビジョンを共有した後、ワークショップを通して地域からの意見を聞き、学校づくりに取組む。



- ① **児童・生徒の参加**…児童生徒の声を学校運営に反映する。
- ② **熟議**…当事者意識をもち多面的で最適な方策を導き出す熟慮と議論。



4. 熊本市のモデル事業について（取組）

（4）学校熟議（学友団と町内代表者会）



春の町内一斉清掃について

生徒の意見表明の場！

対等な立場での議論！

司会進行は生徒たち！



4. 熊本市のモデル事業について（取組）

（5）地域学校行動活動について（校内研修）

地域学校協働活動の実施へ

社会教育主事やまちづくりセンター地域担当職員と総合的な学習の時間の年間指導計画を見直す



社会教育主事が
校内研修で公民館事業について説明



4. 熊本市のモデル事業について（取組）

（6）地域学校行動活動について（eスポーツを通じた地域交流）

社会福祉法人 熊本市社会福祉協議会の取組の一つ



「太鼓の達人」を通して交流を図る



- ・熊本県立大学のサークルが協力
- ・小学生と老人会が楽しく活動
- ・「久しぶりに学校に来ることができて楽しかった。」
- ・他学年でも実施予定

4. 熊本市のモデル事業について（取組）

（7）地域コーディネーターによる地域連携の推進

※地域コーディネーター：地域住民、まちづくりセンター校区担当職員、公民館社会教育主事

【地域学校協働活動の例】

- ・活動支援「野菜づくり」
- ・授業支援「ミシン（ナップザックづくり）」
- ・校外学習「町たんけん」「校区調べ」
- ・講話「戦争に関する経験」
- ・出前授業「人口減少とまちづくり」
- ・活動支援「むかしあそび」
- ・はみがき教室
- ・地域の夏祭り



4. 熊本市のモデル事業について

地域でどのような子どもたちを育てるのか
何を実現していくのか目標を共有する



地域と一体となって子どもたちを育む

「地域とともにある学校」

をつくっていきましょう！！

5. 子どもの未来を考える「熟議」をやってみましょう

「熟議」

学校と地域の協働・連携による効果的な取組を進めるために

- ・異なる立場にあるもの同士が対話する
- ・互いの立場や特性を理解する
- ・学び合い、協力する
- ・互いの変容を認識する



学校のこと、地域のこと、
もっとよりよくするために、新しく創造していく！



5. 子どもの未来を考える「熟議」をやってみましょう

テーマ「これからの子どもたちのために求められる『生きる力』について考えよう」

- 1 自己紹介
小・中学校の頃、一番楽しかった遊びは何ですか？
- 2 幸せに「生きる力」とはどんな力だと思いますか？
〇〇する力 〇〇力
- 3 子どもたちのために、
どんなことができるかアイデアを！
- 4 会場のみなさんと共有
- 5 まとめ



5. 子どもの未来を考える「熟議」をやってみましょう

「熟（よくよく）議（話し合う）」の約束

【話す人】

- ・ あせらない
- ・ 正しい事を言おうとせず、思ったことを口にする
- ・ 教えよう、諭そうとしない
- ・ わからない、う～んでもOK

【聴く人】

- ・ うなづく
- ・ 待つ
- ・ 評価しない、裁かない
- ・ 質問攻めにしない



おわりに

人は人から学ぶ

令和6年度熊本市PTA協議会活動方針スローガン

「未来ある子どもたちのために今、できることを」

～大人も学び、成長し続けよう～